

令和3年度シマフクロウ傷病個体收容結果

表1 平成6～令和3年度シマフクロウ傷病個体收容結果（令和4年3月31日時点）

年度	交通事故	列車事故	感電事故	羅網	溺死	捕食・襲撃	標識調査時 收容	不明	(件)			(羽)	
									その他	死体	生体	收容個体数	
平成6				1			2	2		2	3	5	
7	1						2		2	3	2	5	
8							2	1		1	2	3	
9	2		1		1	1	2		1	4	4	8	
10	2			2						1	3	4	
11	1			1	1		1	1		4	1	5	
12	1			1			1				3	3	
13	3					1		2		5	1	6	
14			1	3			1	1		3	3	6	
15	1								1	2		2	
16	1		1	1	1	1		4		9		9	
17	2					1	1	1		2	3	5	
18			1			2			1	4		4	
19	2		2	2		1				3	4	7	
20	1		1	1	1		2			5	1	6	
21	2			1						1	3	4	
22	3		2			2				1	4	8	
23	1				2	1	1	2	3	5	5	10	
24			1		2	1		2		6		6	
25	1			1		2	2	2	1	6	3	9	
26	1					1		1	1	3	1	4	
27	3					1	2			5	1	6	
28			1			1	1	2		5		5	
29									1	1		1	
30	3	1			1				3	5	2	7	
令和元	3	1	1	2			2	1		8	2	10	
2	1	2	1	1	1	2	1			8	1	9	
3	2							2	1	5	0	5	
計	37	4	13	17	10	18	23	24	17	112	50	162	

※1 表中のデータはシマフクロウ保護増殖事業計画が策定された翌年の平成6年度からとした。

※2 各原因別の收容件数の合計が收容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容個体があるため。
平成30年度：溺死とその他が1羽

※3 「標識調査時收容」は、標識調査時に生育に異常が見られた個体又は死体を收容したもの。ただし、キツネ等の動物に襲われたと考えられるものは捕食・襲撃に分類した。

※4 「その他」としては、栄養不良、トラバサミ、電柱の金具に引っかかる、集合煙突内に侵入、他のシマフクロウによる襲撃、感染症疑い、内科疾患などがある。

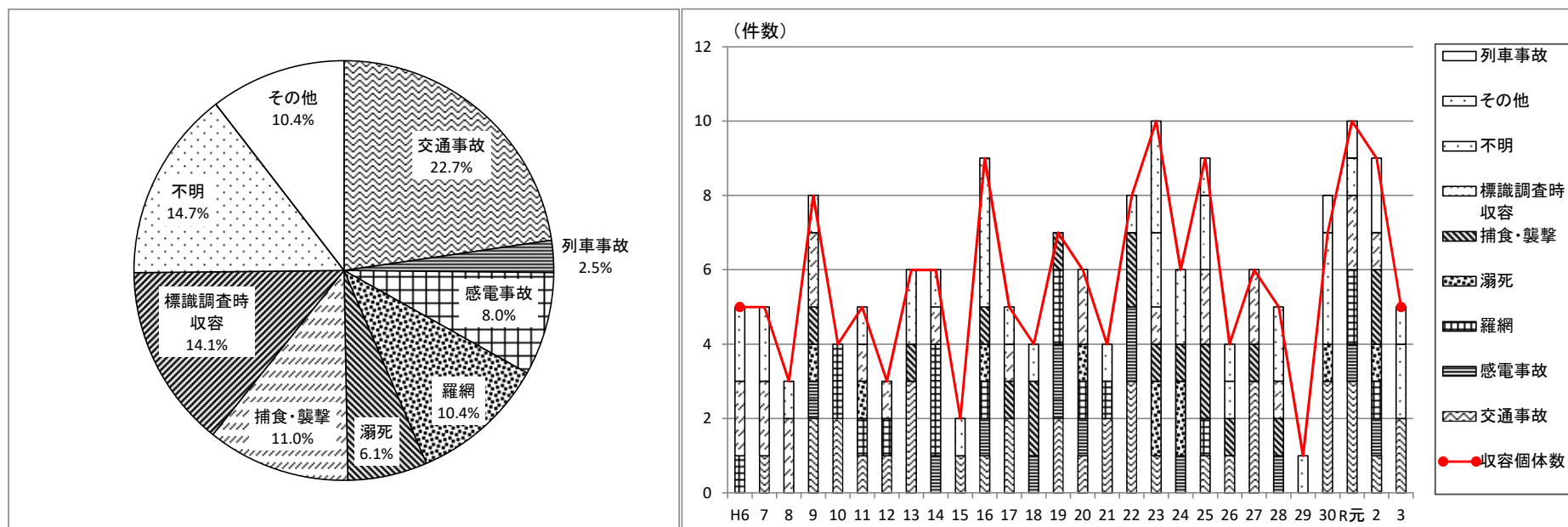


図1 シマフクロウ収容原因別割合 (H6-R3年度)

図2 シマフクロウ年度別収容件数 (H6-R3年度)

※各原因別の収容件数の合計が収容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる収容個体があるため。